

TOBU TIN E 20

私たちは、
医療を通じて
いのち
生命を守ります。

2017
OCT
秋号
vol.

済生会横浜市東部病院広報誌



【特集】 ドクターの仕事を体験！ ブラック・ジャックセミナー

【CONTENTS】

リーダーたちが語る東部病院の医療

〔vol.12〕 患者さんの人生を一生背負っていく
それが、脊椎外科医としての僕の覚悟

運動器センター長・整形外科部長 福田健太郎

〔診療科紹介〕 整形外科

TAKE FREE

ご自由にお持ちください



社会福祉法人 SAISEIKAI YOKOHAMA SHI TOBU HOSPITAL
済生会横浜市東部病院



開会式の後、全員そろって記念撮影。オペガウンに身を包んだ未来のドクターたち。

より多くの子どもたちが、 医療の道を志すことを願って

毎年夏の恒例行事となった中学生対象手術体験、ブラック・ジャックセミナーが、8月27日当院にて開催されました。医療機器メーカーのジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社との共催によるもので、東部病院での開催は今年で9回目となります。

少子高齢化に伴って将来の医師不足が懸念される中、最近とはくに外科医を志望する若手医師の数が減少傾向を見せています。このセミナーは、医療に直接触れる機会を提供することで、将来を担う子どもたち

に「医師になりたい」「医療に携わりたい」という夢や希望を抱いてほしい、手術体験を通して外科の魅力を感じてほしいという思いからスタートしました。

当院のセミナーでは、「切開」「縫合」といった外科で行われている代表的な手技のほかに整形外科のプログラムも組み込み、外科の幅広い仕事について知ることができます。また、若手を中心とした現役医師たちによる熱のこもった指導も、毎年子どもたちに好評を得ています。ほとんどの

子どもにとって、医療の世界は興味はあってもなかなかアクセスする機会がないものですが、セミナーへの参加をきっかけにより身近に感じられるようになったという声は多く、過去の参加者の中からは、実際に医学部に進学したという嬉しいご報告もいただいています。

今回も中学生の参加者たちはドクターの仕事について学び、手術の体験にチャレンジしました。このセミナーが医療の世界への一歩となれば幸いです。



7つのブースを体験

夏休みの合間を縫って今回のセミナーに参加したのは、23名の中学生たち（うち1名は特別参加の小学生）。女子の参加者が多いのは、最近の傾向とか。到着するとまずオペガウン（手術着）に着替え、やや緊張した面持ちで開会式に臨みます。江川外科部長と山崎救命救急センター長のあいさつとオリエンテーションの後、記念撮影をしいよいよ実技のスタート。班に分かれてブースを順番に巡り、外科で行われる代表的な手術や救命救急を体験します。今回のブースは「縫合」「LAPトレーニングBOX」「ER」「採血・AED」「自動縫合器」「超音波メス」「整形外科」の7つ。どれも実際に医療現場で使用されている本物の機器を用いるのがブラック・ジャックセミナーの特徴です。初めての体験、しかも限られた時間の中でどこまでできるかの心配をよそに、中学生たちは素晴らしい集中力で全ブースを制覇。終了後の閉会式では、福田整形外科部長から参加者一人ひとりに修了証が授与されました。

若手ドクターが中心となって指導役を務めた実技。
本物の機器に触れた体験は、きっと参加した子どもたちの記憶に残ることでしょう。



縫合

開腹手術後に欠かせないのが、傷口を閉じ合わせる縫合。人工皮膚パッドを針と糸で縫う作業は、ちょっとお裁縫みたい!? 等間隔で縫うのは見た目以上に難しいのですが、女子も男子もみんなきれいにできていました。

LAPトレーニングBOX



研修医なども使っているトレーニング装置を用いて内視鏡手術を体験。画像を見ながら鉗子进行操作してリングやビーズをつまみ、隣に移動させました。すぐにコツをつかんでスイスイこなすさまは、さすが現代っ子!

ER

人形を使って、倒れている人を想定した救命救急体験。声かけ、気道の確保、心臓マッサージは心肺蘇生法と呼ばれるものですが、どれも実際にやってみると結構難しい様子。声をかけるのも、ちょっと勇気が必要かな?



自動縫合器



胃や肺の切除手術でよく使われる自動縫合器は、「切る」と「縫う」を同時に行う機械。ショットガンのような形で、発動する時は慣習的に「ファイヤー!」と声をかけます。子どもたちもそれにならって「ファイヤー!」。

超音波メス

「ただ今から鶏肉トリ子さんの手術を行います。本日の術者は〇〇、助手は〇〇です。……実際の手術の際に必ず行われる「タイムアウト」と呼ばれる術式を行ってから鶏肉を切っていきます。なかなかの臨場感です。」



整形外科

骨のモデルを使い「骨折の骨接合」と「側弯症の矯正」の2つの手術を体験。ドリルで骨に穴を開け、ネジで金属プレートを固定するなど高難度の作業でしたが、パワフルなドクターたちに励まされ、見事にやり遂げました。



本物の注射器と模擬血液を使う採血トレーニングは大好評。AED（心臓に電気ショックを与え動かす装置）は使い方も知っていたら中学生も使用OKとの説明に、がぜんやる気アップ! この経験が役立つといいですね。

採血・AED



ドクターの仕事体験!

ブラック・ジャックセミナー

手塚治虫の名作漫画からその名前を借りた「ブラック・ジャックセミナー」。
この体験が「医師の仕事とは何か」、「生命の尊さとは何か」をより深く考えるきっかけになることを願っています。

当日のセミナーの様様を動画でご覧頂けます!

開催



ドキドキ!? 手術体験

未来のドクターたちに、参加した感想を直撃インタビュー。
盛りだくさんで内容の濃かった今回のセミナー、いかがでしたか?

小学6年生



「印象に残ったのは採血! いつもはやってもらう側だから、実際にやるのが面白かった。あと、超音波メス。ビデオとかで見たことはあったけど、初めて自分で切ってみて、思ったほど難しくなかった。将来は外科医になりたいです。」

中学3年生



「実技は全部難しかったけど、仕組みとかはわかりました。具体的に職業は決めていませんが、将来は医療関係に携われたらいいなあと思っているので、このセミナーはいい刺激になった感じ。また機会があったら参加したいです。」

中学1年生



「お母さんに勧められて、姉妹で参加しました。面白かったのは、採血と内視鏡。なかなか見れないし、自分でやるってことがないから楽しかった。将来は医療の仕事に就きたい気持ちがあります。外科医もいいかなって思いました。」

中学3年生



「今回は内科医の父に勧められて参加しました。超音波メスとか自動縫合器とか、専門的な機械を実際に使ってみて楽しかったです。将来は医者になりたいと思っていますが、外科医になるかどうかはまだ決めていません。」

未来のドクターたちへ

主催者からも、セミナーへ寄せる思いや感想をうかがいました。

東部病院消化器・一般外科センター長

江川智久先生



本で読んだり画像で見たりするよりも、自分で手を動かし、本物の医者から指導を受けるのは、動機づけとしてはより大きなものになります。このセミナーが将来のことを考える何らかのきっかけになってくれれば私たちとしては十分ですが、できれば外科医を目指す人が出てくれればいいというのが一番の本音です。

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社

医療機器を扱うメーカーとして、社会貢献の一環としてこの活動を行っています。全国各地で同様のセミナーを開催していますが、東部病院の参加者はとりわけ医療に志を持ったお子さんが多い印象です。最初はみなさん緊張気味でしたが、とても前向きで吸収が早いのは驚かされます。それ子どもならではですね。



吉野哲也さん 内藤貴幸さん

LEADERS

リーダーたちが語る東部病院の医療

東部病院を牽引するリーダーたちの姿・人柄・取り組みに迫ります。

vol.12

運動器センター長・整形外科部長

福田 健太郎

何不自由のない暮らしを
一変させたあの日

小学6年のあの日がなかったとしても、福田は整形外科医になっ
ていたに違いない。だが、決して
今と同じ整形外科医ではなかった
だろう。朝、いつものように学校
に行こうと階下に降りた福田が見
つけたのは、倒れている父の姿
だった。脳梗塞だった。その日を
境に、福田の生活は一変した。

「父は整形外科医として30代で開
業し、多くの患者さんを集めてい
ました。私はその長男で、何不自
由のない生活をしていました。成
績もよく、運動も図工もできて
喧嘩も強かった」。

家庭は教育熱心で、当時はまだ
珍しかった中学受験のために塾へ
通い、家庭教師もついていた。

「父は勉強に関してはスパルタで、
元気があった時の父が恐ろしくて
勉強せざるを得なかったんですね」。

そんな父が倒れて入院し、以来
6年間に帰って来なかった。

医師としての第一歩と
生涯の仕事との出会い

中学・高校は東京の私立校に通
う。小学校では負け知らずだった
福田だが、ここで初めて勉強もス
ポーツも自分よりできる人たちが
いることを知る。小学校時代の反
動でまったく勉強しなくなったこ
ともあり、成績はどんどん落ち込
んだ。1年間の浪人生活を経て福
田が山梨の医大に進んだのは、父

が復帰に向かい始めたころだった。
大学卒業後は慶應義塾大学整形
外科に入学。研修医として最初に
赴任した静岡の病院で、福田は脊
椎外科を専門に選ぶことになる。
「脊椎外科の先生方がとても格好
よく映ったんです。脊椎は難しい
管理が必要だったり辛いことはあ
るけれど、それだけやりがいのある
仕事なんだと語られて」。

その後、各地の病院で研鑽を積
むが、東京都にある村山医療セン
ターには特に願って8年間在籍し
た。脊椎外科のメッカとして知ら
れた病院だった。

「僕にとってよかったのは、当時
上にいた2人の先生が側弯症の手
術を多く手掛けておられたので
す。お2人とも全然違う手術をさ
れていたんです。正解は一つでは
ないんだと知り、その中で自分の
オリジナリティーを出すことを覚
えていったと思います」。

手術をして終りではなく
患者さんとは一生つき合う

福田が東部病院整形外科へ赴任
したのは2012年のこと。以
来、脊椎外科、その中でも成人の
脊柱変形と子どもの側弯症の治療
に力を注いできた。大事な神経の
通っている脊椎の手術は、整形外
科の中でも特殊な難易度の高い手
術だ。福田は初診で手術を決める
ことはなく、まずは経過を見守り、
手術が必要と判断すれば、自分の
考えと手術に伴うリスクや不利益
を含めてすべて話し、患者さんの

納得を得たうえで行う。最初に信
頼関係を築くことが大事、それが
なければ成り立たないと語る。

側弯症とは背骨がねじれを伴っ
て横に曲がってしまうもので、思
春期に多く発症する。子どもの治
療には、大人の治療とは違った難
しさがある。

「子どもは将来が長いので、10代
なら彼らの人生はその先に70年く
らいあるかもしれません。でも、僕
は彼らの最後まで見届けることが
できない。自分が今よかれと思っ
ていることをすべて注こうと思っ
ていますが、今やっている治療が
その未来にいいかどうかは誰にも
わかりません。特に脊椎の固定術、
骨をつなぎ合わせて一つにする術
は、本来くねくね動く背骨を動か
なくする術なので、非生理的なこ
とをしているわけです。その責を
負うということが、一番厳しいと
ころではないかと思っています」。

だから、「手術が終わって退院し
たらさようならではなく、一生診
るつもりでいますし、患者さんと
は一生のつき合いになります。子
どもに限らず大人でも同じです。
手術をすることで人生が変わるか
もしれませんが、それを背負わ
なければいけない。自分はそうい
う覚悟を持ってやっています」。

最後は今後の目標を尋ねた。
「飽きっぽい人生でしたが、初め
て脊椎外科という本気でめり込
めるものを見つけることができ、
たくさんの方に育てていただいて
ここまで来ました。先輩たちに対
する一番の、そして唯一の恩返し
は後に続くものを残すことだと思
っていますから、脊椎外科に限
らず、上肢、下肢、すべての部位
にわたって人を育てたいと思いま
す。そして僕が考えるのは、医者
が来たがる病院にしたいというこ
と。働く人たちがここでよかった
と思える、どこに行きたいと聞か
れたら東部病院の整形外科に行き
たいと言ってもらえるような病院
にしたいということです。できれ
ばその業績や技術を、世界に発信
していきたいと思っています」。

後継者を育てることが
先輩への一番の恩返し

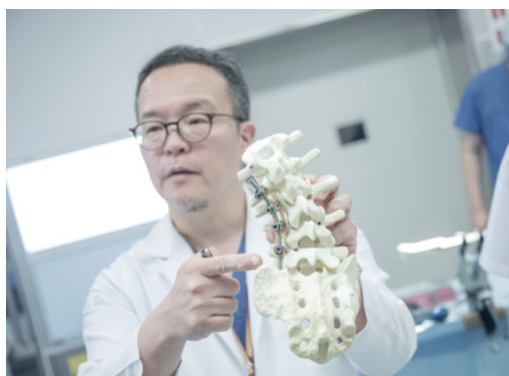
本年4月、福田は運動器セン
ター長兼整形外科部長に就任した。
「前任の部長は14学年以上のたの
で、今回すごい若返りをしたんで

す。前任は『整形外科』という字を
書いて整形外科はファミリーだと
言ってやってきましたから、長男
がいくなり親父の代わりをしなく
てはいけなくなったようで大きな
プレッシャーだったのですが、4
月から弟たち(部下たち)がものす
ごいスタートダッシュをかけてく
れ、お陰様で今、とてもいい評価
をいただいています」。

管理職という立場になり、今ま
で自分のために使うことがで
きた時間が減り、仲間のために使
わなくてはならない時間がたくさ
ん出てきた。これまでと同じベ
ースで手術も続けていきたい福田は、
あとは寝る時間を減らすしかない。
最初はさすがに参ったが、今では
それにも慣れたと言う。



右・中) 8月に東部病院で開催した手術体験セミナー
「ブラック・ジャックセミナー」では、参加者の中学生
たちに側弯症の矯正手術を指導した。子ども相手だ
からといってレベルを落とすことなく、脊椎のモデルを
使って実際と同じ方法で行うトレーニングに、子ども
たちは真剣に取り組んだ。
左) 脊椎……それは福田の人生そのもの。福田の白
衣には「No spine, no life」(脊椎のない人生なんて…)
の刺繍が。



患者さんの人生を一生背負っていく
それが、脊椎外科医としての僕の覚悟



休日の楽しみは、北アルプスのトレッキングと
そのあとの温泉だった。多忙を極める今は、
そんな時間もなかなかとれない。

福田 健太郎

Kentarou Fukuda

済生会横浜市東部病院
運動器センター長・整形外科部長

神奈川県厚木市出身。1996年山梨医科大学卒業後、慶應義塾大学整形外科
教室入局。静岡、新潟、栃木、伊豆、
東京都武蔵村山市の病院勤務を経て、
2012年東部病院整形外科へ。2017年
より現職。日本整形外科学会専門医、日
本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医、
日本側弯症学会成人脊柱変形・脊柱ア
ライメント委員等を務める。

座右の銘

No spine,
No life.
(spine = 脊椎)



NEWS&TOPICS

済生会東神奈川リハビリテーション病院 2018年2月オープン



この4月に「横浜通信病院(神奈川区西神奈川)」が日本郵政株式会社から当法人に譲渡され、新たに「済生会東神奈川リハビリテーション病院」として生まれ変わります。2月の開院に向け、ただいまオープニングスタッフ(看護師)を募集中です。詳しくはウェブへ。

東神奈川リハビリテーション病院
http://higashikanagawa.saiseikai.or.jp

ハイブリッドER完成 救命率の向上に大きな期待



神奈川県初となるIVR-CTを導入し外傷患者の救命に必要な緊急処置が1カ所のできる治療室「ハイブリッドER」が完成しました。深刻な外傷患者の死因の9割は出血によるもので、いかに早く止血するかが重要。IVR-CTは血管造影装置とCTが一体となった装置で、検査や治療を行っている手術台上でCT撮影を行うことができます。治療時間の短縮が可能になることで、救命率の向上が期待されています。

INFORMATION

がんサロンさんぽ道 11月8日(水) 女性限定で開催

がん治療中のスキンケアやメイクについて知りたい女性の方必見。
(株)マーシュ・フィールよりプロ講師の方をお招きし、ミニレクチャーいたします。

11月8日(水) 14:00開場 14:30開始 16:00終了

【会場】 東部病院3階多目的ホール
参加費無料・事前予約不要(当日直接会場へ)
【お問い合わせ】 東部病院がん相談支援センター 045-576-3000

緩和ケア教室

がんに伴う体と心の痛みを和らげる「緩和ケア」について知っていただくために、がん患者さんとご家族様を対象とした「緩和ケア教室」を毎月開催しています。
第1部と第2部のワンセット2部構成。お好きなタイミングお気軽にご参加ください。(参加無料)

- 第1部** 「緩和ケアについて」医師
「がんの痛みとうまく付き合うために」薬剤師
「がんリハビリテーション」理学療法士・作業療法士
- 第2部** 「緩和ケアと療養」看護師
「がん療養における心のケア」臨床心理士
「がんと栄養」管理栄養士

第1部 第2部		
2017年		
11月	6日	20日
12月	4日	18日
2018年		
1月	15日	22日
2月	5日	26日
3月	5日	19日

※全日、月曜日に開催致します。

東部病院 10th Anniversary 済生会100年の歴史

満開の花が一年中咲き誇る風景として、心癒す空間となりますようにという思いを込めて。2017年3月31日で開院してから10年が経ちました。この節目を記念して、3階多目的ホール側面通路と2階から3階エスカレーターホールに、ウォールアートで「済生会100年の歴史」を演出いたしました。ぜひ、ご覧ください。



診療科紹介

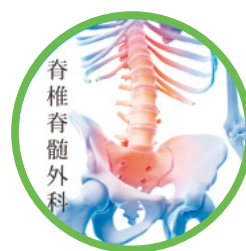
整形外科

整形外科では、外傷・変性疾患・リウマチ・スポーツ整形等、運動器外傷、疾患の殆どの領域を扱っています。上肢外科・脊椎脊髄外科・下肢外科・リウマチ・スポーツ整形外科などの分野の専門医と、これから専門を決めるために整形外科一般を学ぶ若手研修医が協力して診療にあたります。有効性の認められた最新の治療法を積極的に取り入れる一歩先の医療に取り組むことは言うまでもなく、他施設で治療に難渋している患者さんの治療をお引き受けすることも当院の使命と考えています。これからも近隣の医療機関との連携を保ちつつ、横浜市東部地区の中核病院として機能することを目標にまいります。



上肢外科

上肢の骨折・脱臼、ばね指、腱鞘炎、手根管症候群や肘部管症候群などの末梢神経疾患、手の外傷(骨折、腱損傷、神経損傷)、リウマチやその他の原因による手・指の関節炎、手の腫瘍、腕神経叢損傷など。



脊椎脊髄外科

腰部脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニア、頸椎症性脊髄症、頸椎症性神経根症、腰椎すべり症、腰椎分離症・分離すべり症、脊椎側弯症・後側弯症、脊椎の骨折・脱臼、脊髄損傷、変形性脊椎症、骨粗鬆症、脊椎・脊髄腫瘍、多数回手術症例(MOB)など。



下肢外科

骨盤骨折、大腿骨・脛骨の骨折、先天性股関節脱臼、大腿骨頭部骨折、変形性股関節症、大腿骨頭壊死症、変形性膝関節症、下肢のリウマチ、膝関節損傷・半月板損傷・アキレス腱断裂などのスポーツ外傷、外反母趾などの足疾患。



p.3 LEADERSで
紹介しています。

福田健太郎
Kentarou Fukuda
済生会横浜市東部病院
運動器センター長・整形外科部長

当科のメンバーは医師も研修医も元気でフットワークのよい者ばかり。3次救急の病院ですので毎日ひっきりなしに救急車が来て、毎日のように緊急手術を行っています。みんなで力を合わせて乗り切っています。整形外科は大きく上肢、下肢、脊椎脊髄の3分野に分かれますが、当院は各分野のスペシャリスト、それも手術においても診療においても日本のトップレベルの者がそろっているため、全体として非常にクオリティの高い医療を提供できると考えています。他の医療機関で対応不可能な患者さんを診ることも多く、神奈川県最後の砦と思って取り組んでおります。私自身は「側弯症外来」を担当し、思春期のお子さんに多い側弯症を専門に診ています。側弯症は専門的知識を持った医師による早期発見・早期治療が大切で、体操や整体などの民間療法では治りません。成人の方の脊柱変形にも対応しておりますので、背骨の変形でお悩みの方はぜひ早めにご相談ください。